

故郷を守る。

子供たちが夢と希望を持てる社会を実現。



宮野けんいち

元海上自衛官(1等海佐) (艦載哨戒機部隊ヘリコプターパイロット)

国家防衛の任務を終え故郷に帰ってきました。自衛隊勤務を通じて体得してきたさまざまな知識、経験、教訓などを故郷の皆様の安心安全の確保と発展のために活かしていきます。

ご挨拶

皆さま、こんにちは。宮野健一(みやのけんいち)と申します。

私は昭和39年5月薩摩川内市下甕町で生まれ、中学校卒業まで甕島で育ちました。中学卒業後は川内高校に入学し3年間寮生活を送り、卒業後は東京に出て朝日新聞奨学生として学費と生活費を稼ぎながら亜細亜大学で法律(国際法)を学びました。

大学卒業後は広島県江田島の海上自衛隊幹部候補生学校に入校し、自衛官としての人生をスタートしました。自衛官時代は主に護衛艦搭載ヘリコプターのパイロットとして国家防衛の最前線で任務を遂行する傍ら研究開発部隊で新機種、戦術等の開発に携わるなど日本全国の部隊、司令部等で様々な配置・任務を経験しました。この間、軍事問題を始めとする様々な分野の問題解決を担任するとともに災害派遣、事件、事故などに遭遇し様々な経験と教訓を得ました。

この度、32年に及ぶ国家防衛の任務と5年間の会社勤務を終え故郷薩摩川内市に戻ってまいりました。今後は私を育ててくれた故郷に感謝と恩返しをすべく自衛隊及び民間会社の勤務を通じて体得してきた様々な知識、経験、教訓等を故郷の皆様の安心安全の確保と発展のために活かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



宮野けんいち プロフィール

- 昭和39年5月 薩摩川内市下甕町 生まれ
- 昭和46年4月 下甕村立西山小学校入学
- 昭和55年3月 下甕村立海星中学校卒業
- 昭和58年3月 鹿児島県立川内高校卒業
- 昭和63年3月 亜細亜大学法学部卒業
- 昭和63年3月 海上自衛隊幹部候補生学校入校
- 平成 元年3月 海上自衛隊幹部任官(3等海尉)
- 令和 元年5月 海上自衛隊定年退官(1等海佐)
- 令和 元年5月 羽田I7ポर्टセキリティ株式会社 入社
- 令和 6年4月 羽田I7ポर्टセキリティ株式会社 退社

主要配置

- ◆ 艦載航空部隊
- ◆ 研究開発部隊
- ◆ 航空総隊司令部(航空自衛隊出向)
- ◆ 航空集団司令部研究開発主任幕僚
- ◆ 航空プログラム開発隊副長
- ◆ 第25航空隊副長
- ◆ 大湊システム通信隊司令

資格・免許

- ◆ 事業用操縦士(ヘリコプター)
- ◆ 中型自動車・中型2輪免許
- ◆ 警備員指導教育責任者資格者証
- ◆ 施設警備業務1級、空港保安警備業務1級
- ◆ 上級救命技能認定証、自衛消防技術認定証

連絡先

宮野健一後援会

〒896-1512 薩摩川内市下甕町瀬々野浦450

TEL 080-3900-3951

MAIL otoiawase@miyano-kenichi.jp



2025年～2050年代までを
見据えた薩摩川内市のビジョン

ふるさと 故郷を守る。

子供たちが夢と希望を
持てる社会を実現

1. 市民の安心・安全の確保

海上自衛隊勤務を通じて体得した知識、経験、教訓等を生かして激甚化・頻発化する自然災害、原発事故等から**故郷の皆様の安心と安全を守ります。**

- 防災体制の更なる充実と被災者支援対策の抜本的改革
- 能登半島地震等を教訓とした原子力災害時の各種対応計画の再検証
- 40年超原発の早期廃炉化と課題検討
- 地政学的リスクへの対応

2. 少子高齢化・ 人口減社会への挑戦

少子高齢化・人口減社会到来で予期される働き手不足等による生活インフラ・公的サービスの崩壊、限界集落化の危機から**少子化の加速度的進行を阻止するとともに故郷の皆様の暮らしを守ります。**

- 子育てサポート施策の更なる充実と女性が働きやすい環境の構築
- 教育支援体制の充実と教師の勤務環境の改善
- 健康寿命日本一達成による医療費、社会福祉費の削減
- シルバー世代25,000人の知識・経験を活かせる社会システム構築

3. 次世代技術の活用による 都会より豊かな薩摩川内創生

AI、ICT、空飛ぶクルマ等の次世代技術を活用し先進的エアモビリティサービスの導入など新たな社会システム構築により都会より豊かな薩摩川内を創生、**故郷の子供たちの夢と希望、そして未来を守ります。**

- AI、ICT活用等のDX化による行政の省力化・効率化と市民生活の利便性向上
- 空飛ぶクルマの調査・研究と定期航路化等の検討体制構築
- ドローンの防災、救急、生活支援等への活用
- 電気自動車の普及促進・充電設備の設置拡大

4. 新規産業誘致による 魅力ある雇用環境の構築

次世代技術、クリーンエネルギー等を活用する新規産業を誘致し、**故郷の魅力ある雇用環境と持続可能な財政基盤を守ります。**

- 空飛ぶクルマ、ドローンを軸とした関連産業の集積
- 水素関連産業の誘致による九州の水素供給基地化
- 原子力・化石エネルギーから水素・自然エネルギーを活用する社会への意識啓発
- 歳入・歳出の適正化による持続可能な財政基盤の確立

5. 伝統・文化の 保存継承と自然保護

次世代技術の活用と観光客、新規・半移住者等交流人口増加により地域社会を維持することで故郷の伝統・文化を保存継承するとともに開発と自然・環境保護が両立する新たな公共工事のコンセプト導入により**故郷の観光資源とかけがえのない豊かな自然を守ります。**

- 伝統・文化の保存による地域の魅力化対策
- インバウンドを含む観光客、交流人口の増加のための取組み
- 自然保護が確保された公共事業の実現

「I am ready for take off
for final mission.」



私は最終任務のための
離陸準備は完了しています。

詳細は
こちらから

